

2007 年度後期授業アンケートまとめ

一 2007 年度後期授業アンケート結果の概要

1 2007 年度の実施趣旨と従来との変更点

2007 年度の授業アンケートは、FD 委員会での検討の後、実施目的や調査項目を整理・改善し実施した。

【授業アンケート実施目的】

- (1) 科目担当者が個別に授業改善を行うための資料、また教育自己点検活動のための資料を得る。
- (2) 教員相互に、関係科目の改善について課題を共有し改善を行う資料とする。また、アンケート結果を起点として組織的に教育改善に取り組む機会を提供する。
- (3) 授業運営の学生参画の必要性を意識し、学生の学習姿勢・理解度・満足度を知るための資料を得る。また、学生の積極性と責任意識を喚起する機会を提供する。
- (4) 学部・学科としてのカリキュラム改善のための資料を得る。
- (5) 大学全体として教育力の向上に必要な点検資料を得る。

【授業アンケート項目】

以下の点で改善をはかった。(詳細は下記基本データを参照)

- ①項目整理と項目の区分け
- ②質問表現の改善
- ③項目の追加と削除

2 調査対象

今回の授業アンケートの調査対象科目は 2007 年度後期開講科目および通年開講科目の全科目を対象とした。アンケート回答者は受講登録をしている学部学生および大学院生とし、原則として特別聴講学生、科目等履修生は対象外としたが、担当教員の判断で特別聴講学生および科目等履修生のデータが一部算入されている場合がある。

3 調査期間

調査期間は 2008 年 1 月 7 日 (月) から 1 月 28 日 (月) の 3 週間とした。

アンケートは授業時間を 15 分ほど利用し、学生が選択式の回答と自由記述が可能な時間を保証した。教員が配布と説明をおこない、その時間内に回収する集合調査法を採用した。

*2007 年後期の回収率は全体で 76.28% となった。

(参考: 2007 前期 78.66% 2006 後期 73.63% 2006 前期 78.79% 2005 年後期 64.33%)

4 調査設計

調査項目の基本構造は前年度までと同じである。

- (1) 学部・学科・回生・コースなどの基本データ
- (2) 授業についての選択項目 16 項目
- (3) 授業についての自由記述 4 項目

基本データおよび選択項目については、マークシートを採用し、データ処理をおこなった。自由記述は教学向上を目的に、授業担当者に返却した。

二 2007 年度後期授業アンケート結果の特徴と傾向

1 【授業形態別の結果比較】

a. 授業形態別の「総合」結果の比較 … データ①

全体はほぼ横ばい、語学で0.19上昇、実技・実習で0.11低下

全体として見れば、評価ポイントは微増。

「理解」への評価が全体、講義、語学、演習、実習・実技のすべてで低下した。

実技・実習科目においてはほとんどの項目で微減。ただし、評価の数値自体は全体的にかなり高い。

「明瞭」「意欲」「授業外学習」の項目への評価の上昇具合が概ね高かった。

b. 授業形態別「総合」結果の分布 … データ②

演習の分布は4、5点台に多いが、2点台も増える

「総合」項目の結果を授業形態別の分布でみたグラフでは、

講義では2点台前半から4点台後半まで広く分布していることが特徴である。

演習では4点台、5点に分布が多く、高い評価を得ているが、2点台の分布も増えた。

語学では4点台前半に分布の山があるが、3点台・5点に近い分布もあり、比較的ゆるやかな分布を示している。

実技・実習ではサンプル数が少ないが、高い評価を得ている。

c. 授業形態別・学科ごとの「総合」結果の分布 … データ③

学科ごとに「総合」結果の分布傾向が異なる

学科ごとに「総合」の結果について授業形態別（講義・演習）の分布を調べると、かなり傾向が異なった。授業形態別の分布傾向に加えて、さらに学科ごとの科目分布を見ることで、具体的な改善につながりやすい。

2 【外部委託科目の結果】

a. 英語系科目の結果 … データ④

総合ポイント、ECC 0.1上昇、本学教員・非常勤講師0.31上昇で、差が0.24まで縮まる

ECC 派遣教員が「出席」以外のすべての項目で、それ以外の教員を上回ったものの、過年度のアンケートと比較した場合、そのポイント差は明らかに縮小している。ECC 派遣教員に対する評価の推移と、本学教員・非常勤講師に対する評価の推移を比較してみると、学生の本学教員・非常勤講師に対する評価が毎年、上昇していることが目立つ。

過年度、特に差が大きかった「明瞭」「理解」「学習目標」の3項目について、差は大幅に縮小している。ただし、2007 年後期 ECC 派遣教員「理解」の項目が、2006 年後期と比較して評価が低下していることは見逃せない。本学教員・非常勤講師に対する「理解」の項目は、評価が上昇しているとはいえ、今年度以降、いつ ECC 派遣教員と同様に低下するかわからない。特に注意が必要である。

b. 情報系科目の結果 … データ④

総合ポイント、ECCは横ばい、本学教員・非常勤講師0.24上昇で、差が0.47まで縮まる

ECC 派遣教員がすべての項目で本学教員・非常勤講師を上回った。しかし、2006 年後期と比較した場合、そのポイント差は縮小傾向にある。ECC 派遣教員に対する評価の推移を見てみると、上昇している項目も存在するが、低下している項目も多いことに気づく。一方、本学教員・非常勤講師に対する評価の推移に関しては、全項目、評価が上昇している。

しかし、ECC 派遣教員と本学教員・非常勤講師への評価には、依然として大きな差がある。

3 【「総合」項目と他の項目との相関関係】 … データ⑤

「実技・実習」以外は「総合」との相関関係の傾向は変わらず

「総合」と各項目間の相関係数を授業形態別に見ると、「理解」「興味」「触発」「明瞭」「学習目標」等のそれぞれの項目と、比較的相関関係が強い。この傾向はこれまで行ったアンケート結果と同様である。

しかし、実技・実習に焦点を当ててみると、2006年後期において「明瞭」「学習目標」が特に強い相関関係を示していたのに対し、2007年後期では「意欲」「触発」「興味」「学習意欲」等が強い相関関係を示すようになった。

4 【学科別の集計結果】

a. 学科別の全体集計 … データ⑥

全体的に評価ポイントは微増、特定の項目でポイント低下

児童教育では、すべての項目において数値が低めに出た。4点台は「出席」の4.20ポイントのみであった。特に、「配慮」「授業外学習」「改善」「自主学习」の低さが目立つ。2007年前期と比較してみると、「将来」「自主学习」以外のすべての項目でポイントが低下している。

日語日文では、2006年後期と比較し、総じて評価が高くなり、すべての項目の数値が上昇した。

キャリア（全体）では、大幅なポイントの低下が目立つ項目が存在する。特に「配慮」「将来」「理解」「興味」「触発」等、キャリア科目設置の趣旨と密接に関係する項目についての低下が目立った。その他の項目自体についてのポイントも低めである。

項目別に見てみると、特に「意欲」「授業外学習」は総じて評価が一定以上、上昇している。「改善」については書道、大学院を除くすべてで低い数値が出た。また、「自主学习」については、ベーシックスキル（日本語）、書道以外では、かなり低めの数値が多数、見受けられた。全体的に「理解」「学習意欲」の低下が見られる。

b. 学科別・ゼミ別の集計 … データ⑦

全体的にゼミの評価は高めだが、課題は多い

英コミにおいては、1回生、3回生、4回生と飛躍的に評価が上昇している。2回生の現マネでは2006年後期と比較し0.63ポイントも上昇した。一方、2回生の日語日文（除書道）、文化財ではやや低下が見られた。

1回生の英コミでは「学習目標」「出席」以外のすべてで2006年後期よりも低下が見られた。特に「理解」の低下が著しい結果となった。2回生の日語日文（基礎演習Ⅱ）ではすべての項目で低下が見られた。

1回生から4回生のすべてで項目別に調べてみると、総じて「理解」が低下しているゼミが多い。

また、3、4回生では「理解」に加え、「興味」「触発」「出席」「学習目標」が低下しているゼミが多く見られた。

児童教育に関して2007年前期と比較してみると、全項目にわたり評価が著しく低下していることがわかる。授業アンケート記述部分を分析した結果、私語がうるさい・何を学んでいるのかわからない・説明が難しい、特にピアノにおいては、レベル別にすべき・先生の数を増やしてほしい等の意見が出ていた。

三 基本データ

1. 基本データ

以下の6項目とした。

①科目名 ②クラス ③学部(院)・学科 ④回生 ⑤コース ⑥科目コード

2. 授業についての選択項目

下表の16項目について[1: とてもそう思う 2: まあそう思う 3: どちらともいえない 4: あまりそう思わない 5: まったくそう思わない]のうち、もっともよくあてはまるもの一つのみマークさせた。

質問の意図を明確に理解させるために、各項目に[明瞭]などのようにキーワードを設定した。

また、2007年度より以下の変更をおこなった。

①項目整理と区分

項目の区分としてA. 教員の授業方法について、B. あなたの理解度について、C. あなたの授業態度について、D. 総合・その他の別を設け、順序も該当区分ごとに整理した。また、別紙のように項目の調査趣旨を明確にした。

②調査文の改善

文言も調査趣旨を明確にするため、「教員は・・・」「私は・・・」など主語を明確にした。

③項目の追加

【改善】項目を追加し、開講期中の改善度を測る項目を追加した。授業態度に関する項目では【自主学习】を追加し、授業への積極性を図る項目を追加した。

④項目の削除

【到達度】【補助資料】は必ずしも統一アンケート項目である必要が無いとの理由で削除し、自由項目例として列挙した。

【A. 教員の授業方法について】	
①教員は、指示や授業内容の説明を、はっきりと聞き取りやすく行った。	[明瞭]
②教員は、この授業の学習目標をわかりやすく示していた。	[学習目標]
③教員は、十分な準備を行い意欲的に授業を進めた。	[意欲]
④教員は、学生が自主的に質問や意見を述べられるよう配慮していた。	[配慮]
⑤教員は、授業外での学習方法(資料・課題など)を示していた。	[授業外学習]
⑥教員は、授業を妨害する私語等を少なくするよう環境を保っていた。	[私語・環境]
⑦この授業の内容は、将来役に立つものであったと思う。	[将来]
⑧この授業で感じた授業方法の問題点は、授業期間中に改善された。	[改善]
【B. あなたの理解状況について】	
⑨私は、この授業で学んだ内容をよく理解することができた。	[理解]
⑩私は、この授業の内容に興味・関心を持つことができた。	[興味]
⑪私は、この授業から新たな問題意識や知的好奇心を刺激されることが多かった。	[触発]
【C. あなたの授業態度について】	
⑫私は、この授業にまじめに出席した。	[出席]
⑬私は、この授業に関して教員の指示に従い熱心に勉強した。	[学習意欲]
⑭私は、教員からの指示以外に、自主的に学習して取り組んだ。	[自主学习]
【D. 総合・その他】	
⑮この授業は総合的にみて、良い授業だったと思いますか。	[総合]
⑯☆各担当教員の自由設定項目	[自由]

3. 授業についての自由記述項目

上記 16 項目への選択項目以外に、自由記述式で授業について以下の 4 つの質問を設定した。

- ①この授業のどの点がよかったですか。
- ②この授業のどの点がよくなかったですか。
- ③良くなかった点を改善するためにはどうしたらよいと思いますか。
- ④その他この授業で感じたことを自由に記入してください。

4. 回収・集計方法

(回収) 以下の方法で回収を依頼した。

①アンケート用紙の配布は封筒で行う。②授業内での回収については、基本的に、学生自身がアンケート用紙を封筒へ直接入れるように科目担当者が指示する。その際、回収封筒の場所を指示する又は教室内に封筒を回す、あるいはクラスサイズが大きい場合、適宜、列の一番後ろの学生が回収を行うなどして、学生が直接封筒へ入れるよう指示する。③その際、出席者すべて回収が終わるまで教室から出ないよう指示をする。④提出については、授業終了後、授業担当者が持参して提出する。

(集計) 回収した封筒について、大学で集約し、業者(京都電子計算)へ渡す。①基本データと、②授業についての選択項目を機械(OMR)で読みとり、②については読みとり時に[とてもあてはまる]を 5 点、[まあそう思う]を 4 点、[どちらともいえない]を 3 点、[あまりそう思わない]を 2 点、[全くそう思わない]を 1 点に置き換え、各種分析をおこなっている。授業についての自由記述項目については集計や統計処理は一切おこなっていない。集計後、授業担当教員に担当科目のアンケート結果へのコメントや受講者へのメッセージを依頼した。

5 回答者のプロフィール

アンケート対象科目の受講登録者総数と、有効回答数および有効回収率は下表のとおりである。

	全受講登録者	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生以上	大学院生	回生不明
登録者数	22125	9926	6282	4407	1336	174	0
有効回収数	16876	8159	4509	3005	659	135	409
有効回収率	76.28%	82.2%	71.78%	68.19%	49.33%	77.59%	0%

(参考：2007 前期 78.66% 2006 後期 73.63% 2006 前期 78.79% 2005 年後期 64.33%)

*有効回答数＝登録者数－欠席者

*有効回収率＝有効回答数／登録者数

*2006 年度以降は、以下のように集計方法を改善したため、回収データ中の無効(不明)データは 0 である。

1) 読みとり方式を OCR から OMR に変更し読み取り精度を高めた。

2) 科目コードと所属を、マークに加えて科目ごとに袋で管理し無効(不明)データを無くした。

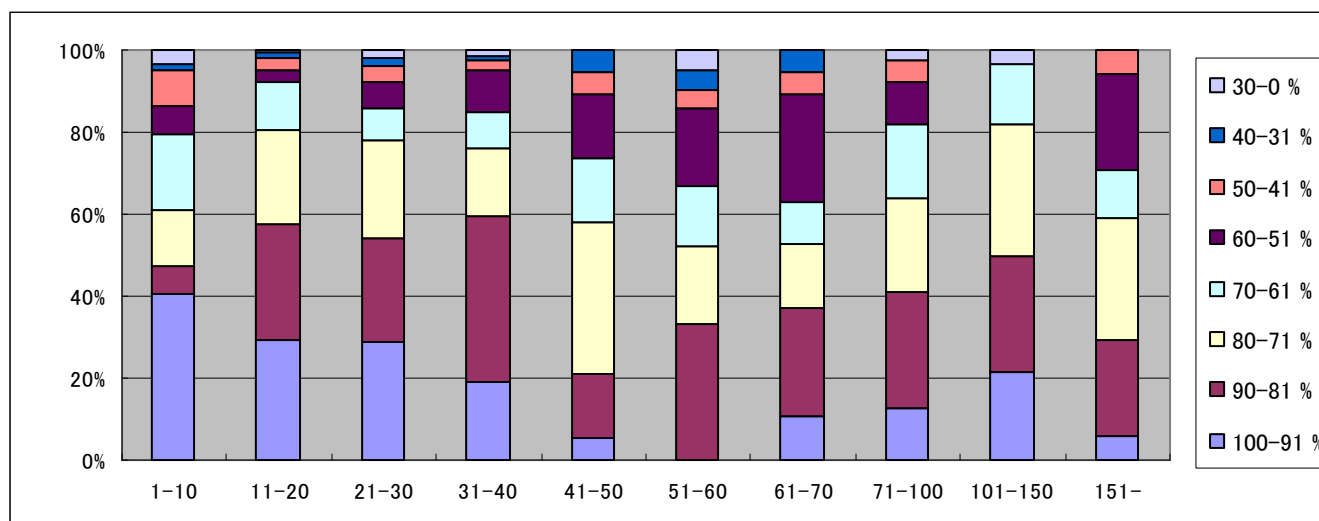
回生、所属別回収率

	英文	日文	歴史	文化財	児童	文化政策	現マネ	看護	院文	院政	学科不明
登録者数	1228	3283	3892	2028	2043	4293	2807	2322	88	86	55
有効回収数	983	2385	2946	1552	1806	2915	1790	2025	69	89	316
有効回収率	80.05%	72.65%	75.69%	76.53%	88.4%	67.9%	63.77%	87.21%	78.41%	103.49%	574.55%

児童教育・看護の回収率が非常に高かった。

クラスサイズ別回収率

回収率 クラスサイズ	100-91 %	90-81 %	80-71 %	70-61 %	60-51 %	50-41 %	40-31 %	30-0 %	合計
1-10	24	4	8	11	4	5	1	2	59
11-20	49	48	38	20	5	5	2	1	168
21-30	30	27	25	8	7	4	2	2	105
31-40	15	32	13	7	8	2	1	1	79
41-50	2	6	14	6	6	2	2		38
51-60		7	4	3	4	1	1	1	21
61-70	2	5	3	2	5	1	1		19
71-100	5	11	9	7	4	2		1	39
101-150	6	8	9	4				1	28
151-	1	4	5	2	4	1			17
合計	134	152	128	70	47	23	10	9	573



6. 教員による⑩自由設定項目の利用状況

利用率は約 6.1% と低い数値だった。51 科目 / 838 科目 (自由設定項目の利用科目 / 総科目)

* 2007 年前期 3.5% 2006 年後期 16.4% 2006 年前期 約 5%

以上